

## 凡 例

1) 本書は、先に同じく日本漢方振興会漢方三考塾より出版した『腹証函解：漢方常用処方解説』（通称『赤本』）の姉妹版として、その解説を補足する目的で編集されたものである。

各処方の後に（漢方常用処方解説××頁参照）と記してあるのは内容の重複を避けるためである。本書と共に必ず併読して頂きたい。

収録した処方は『漢方常用処方解説』に収録した126処方に加えて、関連処方も収録し、全部で156処方となっている。

2) 処方は效能をもとに章を分かち、各章の始めにそれらの章についての総括的な解説を行った。

3) 処方の解説は以下の要領に従っている。

組 成：構成生薬を記した。分量については病状や病人の各種の条件によって異なるべきなので、敢えて記載していない。

病 態：本書の核心を成す部分で、処方がどのような病態生理、あるいは病理機序の対応して立方されたか、についての編著者の考察を記した。

方 義：構成生薬の性味、効能、時に帰経を記し、必要に応じて二味の組み合わせによる効能について記した。また君臣佐使の決定に関する論拠を考察した。

症 状：四診に現れる所見を病態、方議を関連づけて記した。

臨床応用：具体的な病名よりも、その処方の病態が、臨床的どのような場面に適応するかという点に重点を置いて記述した。

症 例：必要と思われる箇所には編著者の治験例を挿入した。

4) 引用したテキスト及び参考文献はまとめて巻末に列記した。

5) 本書に収載した主な処方のアイウエオ順の索引を最後に付した。